

# 報 告 書

令和5年3月23日

公益社団法人岸和田青年会議所  
社会開発委員会委員長 重松崇之 殿

同委員会副委員長 針谷岳邦

令和5年度1月度定例会並びに新年互礼会において、これまでにない試みとして、案内状にQRコードを付けて出欠の回答の集計をしました。

この点、出欠の回答の集計方法は、QRコードからリンク先の回答フォームに回答いただく方法と、返信ハガキを返送いただく方法の2種類を併用しました。

案内状にQRコードを付けて出欠の回答の集計をすることの有効性につき、以下のとおり検証しましたので、その結果をご報告いたします。

## 1 集計結果について

- (1) 案内状の発送通数：375通
- (2) QRコードによる回答数（延べ数）：90通
- (3) 返信用ハガキによる回答数（延べ数）：105通

## 2 課題

- (1) 同じ人が複数回回答したケースがあること

QRコードの場合は、同じ人が、参加の回答をしたり、後日に欠席の回答をしたりすること（矛盾した回答）が散見された。

- (2) 回答が受け付けられているかの問い合わせがあったこと

QRコードの場合は、回答が受け付けられているかの確認の連絡が、事務局に複数寄せられた。

- (3) 2種類の 방법으로回答する方が少なかったこと

回答方法は、QRコードか、又は返信用ハガキのいずれかのみでよく、その旨を案内状に記載していたにもかかわらず、両方の方法で回答した方が少なかった（方法が1つの場合に比べて集計の手間がかかった）。

## 3 課題解決の方法

- (1) 上記2（1）の課題について

案内状で2回目以降は事務局に電話するようにアナウンスする方法がある。

- (2) 上記2（2）の課題について

回答した方に回答を受け付けた旨をメール等で返信する方法がある。

- (3) 上記2（3）の課題について

QRコードに一本化して集計することになるとよいと考える（ただし、案内状に問い合わせ先を明記してSNSに不慣れな方に対する対処はする。）。

## 4 QRコードを付して回答を得ることの有効性について

有効。アナログで対応するよりも集計がかなり容易であるし、情報の管理に手間もかからないし、幅広い年齢層に利用していただけると感じた。

以上